京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

定價　明治四十三年（紀元二千五百七十年）一ケ月前金卅錢　金二圓八十錢▲郵稅一ケ月十五錢
月曜日及び大祭日の翌日は休刊
廣告料金　▲五號活字十七字詰一行一円五十錢▲雜報欄特別廣告五號字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人　高木久馬太
印刷人　松久神一郎
發行所　京城新報社　京城西署西小門通（電話六六三）

編輯局私言　五洲生

▲記者の稱に依る昨紙掲載「條約改正と關稅問題」は實は數日に渉りて大に論議致度と存したる處、今や半島のこと寔に多事、脚下の事業に論議すべきこと多々あるに、何を苦んで內地の世話まで餘事の手間をするかと社同人よりの注意、成程と合點參りて此際貴重の紙面を塞ぐのは新報愛讀者諸賢の信頼に背戾するものと了解いたし候まゝ右に關する論說は暫く中止致すことゝ御承知を料度候、只該問題は法律上及び政治學說上よりして、次の議會に遂審問題として期待せられ候。萬世一系の　陛下が統べ王ふ秀麗なる帝國に責任內閣あるなくして法治國とは無意義のことゝ被存候。

▲法治國といへば半島と、憲法との問題に關して、政友會は反對の決議を爲したりとの事に候、新領土に及ぼす憲法の効力問題は、既に御承知の六三問題にて學者の中にも政府側に立ち消極說を唱へしものも有之候へども、現時學界の通說としては不通の論にて候、一國の領土に立憲制と專政制とあり得べしといふ不通の解釋を無理に徹さずとも殖民地に對する施政は充分に其目的を達し得らるべきに、さりとは賢明なる官僚達にも似合しからず被存候

▲六三問題と申せば前の臺灣法院長前代議士辯護士高野孟矩氏は頃日刑期に先ちて出獄を許されしとか、曾ては司直の府に立ちて剛直の名聲を一世に博せしの人名士の末路轉た感慨に不堪候

亦嚢には謹直博識、一世の儀表と稱へられし橫井時雄氏、亦等しく一度誤りて縲紲の辱を受けしと雖も何れも共に爲す有るの人、希くば過去は過去として葬らしめ、人物拂底の我が新領土に來りて半島の爲めに盡されんことを人事棺を蓋ふて後定まる、可惜餘生を桃源の夢に耕ひ玉ひなぞ。

▲近時鮮人間に總督府の戶別調査に疑を懷き、其の所有財產を凡て他人名義に密議ふるものある由、開けぬにも程がありと申すものに候、それに付けても假裝賣買は法律上當然其の効力を有するもの即ち權利の移轉あるものと大審院判例及び近時多數の學說にて殆んど確定致居候へば、法網を潜らんなど企み候ては却て取返しのつかぬ損害を醸すこと可有之候。

●阿片輸入禁止交渉　清

國外務部は駐劄公使劉玉麟に訓令を發して阿片輸入協約を廢棄し而して今後清國をして全然阿片の輸入を禁止せしめ得るの件に關し英國政府と交渉を開始せしめたりと云ふ

●米實業家の失望　清

國よりの電報は渡清米國實業家の一行中尙清國に居殘りて米國銀行、米清汽船會社等の計畫をなしつゝあるものあるが如く報じたるが之に就き一消息通は曰く或は單に一行中の某々がさる目論見を立てたることあらんも實行とは尙大に距離あるべく其遂に實行に至るべきやも頗る疑はし蓋し清國の利源に就ては世界一般に大に誤解せる居るらしく事情を知らぬ外國資本家等は清國とさへ云へば其內部には無限の富源あるが如く考ふる樣なれどさて實際に就て調査すれば夫程思はしき事業もなく特に其內地の人民はマッチの軸を製本何程と値打して賣買しつゝある如き有樣にて其實力を以て知るべきものなりされば多大の希望を懷きて一度清國內地を踏査したるものにして殆んど失望せざるものなく渡清米國實業家も案の如く失望して引立たるもの多かりしやに傳へられ居れば該一行中の計畫として前記の如き事業の成立するに至るべきやは疑問なりと語れり

●各監獄と在監囚　十

二月一日司法部調査に係る朝鮮各監獄署に於ける受刑者及刑事被告人外一般人の罪囚と聞くに六千七百四十三人にして之れを十一月一日調査の夫れに比較せば百八十名の增加を示せりと云ふ

●全南に於ける模範郡　同

郡民は他郡民に比し比較的納稅の觀念を有し舊財務署徵收時代より全南道中各種共常に第一位の成績を有し年々其成績は向上しつゝあり然る處本年即四十三年度地稅幷附加稅及び新三稅は去五日全部完納せり是れ實に全南中第一着に完納の美蹟を收めしものにて國家の爲めに慶賀する處なり右は畢竟各面長地方委員の精勵及郡廳員の日夜督勵に從事したる結果なるも又た如何に郡內農民が併合の仁政を謳歌せるかを證明するに余りありと云ふべきものなり尙は同郡に於ては本年內調定せる各種は完納し目今殘れるは十一月調定せる國有地小作料のみなりと此れも年內全部完納すべく郡員一同精勵し居れりと

●報德講演會盛況　西大門外通

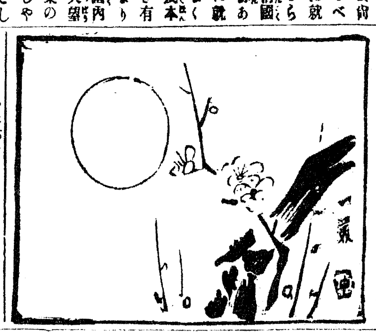
報德湯樓上に於て每日曜日報德談あり近來朝鮮人學生等五六十名熱心に聽講す講演者は東拓會社大場參事農林講習所式田講師等にして中々盛况を極め近き將來には農事改良上に貢獻する所あるべし

勅題「寒月照梅花」　和歌募集

選者　九皐舘去留

何首にても隨意、用紙用箋類も又御隨意の事、締切期限十二月廿五日、發表は四十四年一月元旦の本紙上を以てす、同好の士奮つて投詠せられんことを希ふ

十二月二日　本社編輯局



文苑

●冬の日　碌々庵

秋になつた。雜木林の木がハラ／＼と落葉する、うら寒い風が樹々の間を吹きすぎる、今日も陰氣な薄暗い秋の日は暮れた、……かくして。其の內に木の葉が落ちて了うと、樹は棄てられた團扇の骨の樣になつて、一面に枯れ野が現はれたやうになる、樹々は、寂寥の姿で、冬の日の沈默に眠る……。人間も秋の年になると喜ぶに付け一本悲むに付け一本と、頭から、秋の斑の如く毛が落ちる、皺が出來る。やがて禿頭となる……其の時、神は之を永劫の境に眠らさせたまう。

山中鹿之助　第卅六回　西尾麟慶演

鹿之助は如何にもして此の怪物を生捕と用意ない、一同の疑ひを晴しくれん、と用意より取致して豫て貯へありし藥を印籠より取出して口中に含み、短刀を腰に挾んで水中へザンブとばかりに飛入りましたアレ／＼と一同驚いて見てをりまする暫くは見ゑません、頓て出で參りまして短刀を口にくはへ、大きサ犬ぐらゐな毛は茶の濃いやうな色にして、面部白く耳なく毛長く牙長き怪物を小脇に掻込んで夫へ上つて參りました、最早獸は息絶たる樣子であります、偖て大勢の人々は之へ集つて何んであらうかと云て見て居ります、義久公御覽になり、一同は只だ驚いて何んであらう珍らしい獸だと噂を致して居りまするが、此獸の名を知るものがありません見ると、是は川獺でなつて夫を、此の川獺と云ふは水中に於ては自由のきくものであります、と云て水中に產れるもので御座ひませんが、水邊を好んで水中に入て魚を捕り食ひ餌と致しまする、或は水鳥抔を取食ひます、此川獺の膽は婦人の血の道の藥であります只今では箇樣なものは使ひません、外に結構なものが御座ひます、茲で一同の者が大ひに感心を致します、鹿之助は之を殿より拜領致して、其皮を剝まして己れの敷皮と致しました、尤も年數三百年も經ましたものでありますから容易に退治る事は出來ません、夫が川獺と云ふ事に極りまするを、又人が何に川獺なら何でも無い話だ、其位のものなら拙者でも出來る、高が川獺だ手前がやつて見やうかと思つたが大人氣ないから歇た、武士たるものは戰場の功は兎もあれ、川獺などは獵人でさへ捕る、左樣なものを捕たつて功にはならんと云て、人が賞してくれません鹿之助は茲につく／＼と思案を致しましたが、明日にも戰爭が始まつて我に五十六十の兵を渡すには相違ないが、此分では誰も歸依して下知に從ふまい左る時に於ては我充分なる働きを致す事相成らず、熟々思ふに人は恩と威との二ツが無ければ屈服をしないもの、義久公は緣につながるものなれば我を用ひると雖も、臣下の者は信用しない然る時は茲に我が手足となつて働く者少くも十名もなければ到底我功を成す事能ふまじ、左れば我諸國を巡歷爲して我が手足となる者を麾下に附けて再び立歸り、尼子の爲に盡すべしと決心を致しました、茲に於て鹿之助早速義久公に願ひを出しまして、御當家に來つて君の御用ゐ少なからず、併て業へ三ケ年の間御暇を給はらば有難き仕合せと云ふ義久公も其仔細を問んと考へましたなれども、鹿之助も何か深き考へのある事であらうと思ひましたから、云ふが儘にまかせて鹿之助に暇を給はりましたから、鹿之助は雲州富田の城を發足致しまして、伯耆國へかゝりまして行けども／＼山又山で人家のある處へ出られません、大ひに困難を致しましたスルと遙か彼方に燈火が見へました、是れ幸ひとたどり／＼て其家の門口に立寄り　鹿「某しは都まで參る者であるが行暮て難儀を致す、何うか一泊を賴みたいものである、と申し入れますと立出たは五十餘りの百姓体の男　男「ユ、れ武家樣の事で御座ひますかられ宿は致したく存じますが、斯る山家でありまして皆貧乏人ばかり揃て居りまして、私は此の村の名主で御座ひますが、イヤモウ名主と云ふは名ばかりで御座ひます、れ泊申した處で何んの御待遇も出來ません、依てれ宿は申し兼ます　鹿「イヤ某は樹下石上を宿とするも厭ふところにあらず、雨露をさへ凌げば宜しい宿賃は拂ふによつて一泊を致させてくれ」と賴みましたから　男「左樣ならばれ宿賃抔は頂きませんが見苦しくとも御一泊遊ばされまし」と承知をしてくれましたから、其家に於て一夜を明し翌日に相成り此の親父が案內をしてくれまして村外れにかゝつて參りました、茲で禮を述べて別れんと致しましたる時向ふの方より大ワツと云ふ聲を揚げて此方を指し



京城新報

死せる東拓會社

監督局の新設

御用紙京城日報の報ずるところによれば我政府は今度總督府内に東洋拓殖會社監督局なるものを置かるゝソウだ、併し京日紙の報道果して異なるか否、併し若し異なりとせば現東拓重役宇佐川中將以下は政府の採らんとする措置に就いて僅かに愧死すべきである。

東洋拓殖株式會社は世人の已に已に知るが如く其創立以來殆んど二ケ年を經過したのである、而して此二ケ年間に會社が其事業上如何なる成績を收めたかと云へば夫れは殆んどゼロである。東拓の重役諸氏は言はん、過去二ケ年間は半島にとつて政治的大變動の時期であつた、斯る時期に於て會社が事業上何等の成績を收め得ざりしは素より其處なりだ、アー重役諸氏の辯明、最早今日に於ては何人もソレに耳を藉さぬ。不幸なる東拓會社は今日に於いて**無用視**さるゝに到つた、氣の毒なる重役諸氏は世人より**無能視**さるゝに到つた、過去二ケ年間に事業上何等成績を收め得ざりしを時期の責任に歸して一時を糊塗せんとするも斯る**言譯**をば世人は斷じて**笑殺**するに到つた。世人も知る如く余輩は曾つて東拓の設立に就て熱心なる贊成をしたのであつた、而して其創立さるゝや半島開發の大機關として衷心よりして歡迎したのであつた故に余輩は會社が士族の商法メきたることを爲さんとするや余輩は袖手傍觀するに忍びず、如何にかして失敗せざらしめんとして絶わず苦言を呈し敢て東拓重役諸氏に向かつて一面反省を促し、一面敎へんとしたのであつた、併し東拓重役諸氏は余輩の言に聾者であつた。古語に曰く、**針の指示を無視する船長は船を暗礁に乗上ぐる**と、嗚呼東拓は遂に暗礁に**乗上**げた、前にも後にも動かなくなつた。

我政府は從來東拓に對する世人の非難に付て大に顧慮したものだ、故に昨年の議會に於ては世人の期望を納れて東拓法を改正した、併し今日より見ればへなかつた、否は何等生命を東拓に與して人にありだ、果然根は法にあらず於て東拓無用論が起つた、政府の衞にとして此際**大斧鉞**を會社の頭上に下し、之を改革して創立元來の目的を遂げんとするに到つたのは素より當然の事だ。

聞說らく東拓監督局の設立は東拓監督の爲めだ、東拓の監督とは取も直さず宇佐川總裁以下重役監督の爲めだ、嗟從來監理官の爲めに間接監督を受け來りたる重役諸氏は今後新設監督局の直接監督を受けんとす、諸氏の心事に別條はなかるべきも諸氏の**不信**は無遺憾**天下**に**曝露**されたものだ。嗚呼東拓の重役諸氏、諸氏は此際如何なる途に出でんとするか、余輩をして言はしむれば職を辭し、罪を天下に謝するの外はない。

我政府の東拓監督局を置かんとする、聊か彌縫の嫌ありと雖も、之を置くや大に良し、幸に監督局長其人を得んか政府は之に因つて東拓に新生命を與へ内創立の目的を達し、外か國民に向かつて三千萬圓補助の責任を明かにし得べし、以上の理由に因つて余輩は政府の採らんとする措置に贊成する、而かして同時に氣の毒ながら現重役諸氏に**辭職を勸告**する。

東京電報（十四日）

▲**皇族會議** 來る十六日午前十時三十分より宮中に於て曩に樞密院の諮詢を經たる皇室財產令に付き皇族會議を開會する事に決し當日は東宮殿下を始め各皇族參列の筈にて昨日各殿下に對し夫々御召狀を發せらる

▲**首相の晩餐會** 豫算內示會は前電の如く本年より廢止する筈なるが桂首相は來十八日頃晩餐會の名義にて各政派領袖連を招待して說明する所あるべしと

▲**豫算內示會廢止** 昨十三日午後長谷場衆議院議長は桂首相を官邸に訪問し豫算內示會に就て交涉の結果本年以降は豫算內示を廢止し豫算綱領を各議員に配布する事に決したりと

▲**特別會計豫算** 朝鮮及び臺灣の特別會計豫算は閣議に於て決定したり

▲**水害復舊費査定額** 水害四縣よりの要求二億七千六百二萬餘圓なりしが一千八百五十一萬餘圓に査定の上昨日決定せり

▲**本議會黨派別** 本議會に於ける衆議院各派の勢力は政友會二百〇三人國民黨九十二人中央黨五十八又新會殘黨十七人無所屬十七人なりと

▲**日本大博會長** 宮中顧問官兼別當平山成信氏は五十年度開催の日本大博覽會々長仰付られたり

▲**ド級戰艦の新造** 來年十月横須賀海軍工廠に於てド級新戰艦を起工着手する事に決定したり

▲**陸軍大學新入生** 陸軍工兵大尉佐藤增雄氏外五十九名は陸軍大學に入學を命ぜられたり

▲**軍醫正の轉補** 熊本衞戍病院長陸軍二等軍醫正内海專太郎氏は第十一師團軍醫部長に轉補其後任は同二等軍醫正植木第三郎氏任命せらる

▲**本年の保險界** 本年の保險界は各會社とも一般に不況の狀態にて其の重もなる原因は一般經濟界の不況と今夏大洪水の爲め產を失ひ餘裕なく被保險者の拂込をなさゞるにありと

▲**北越の吹雪** 鐵道院着電によれば十二日北越線田口直江津間に吹雪烈しく積雪二尺二寸に達し爲めに各列車とも五時間餘遲延せりと

▲**宇佐山香間開通** 豐州線宇佐山香間の鐵道運輸營業を開始せらる

▲**銀行資金七億圓** 大藏省最近の調査によれば全國各種銀行數は四千百七十一行にして其の資本金は七億百三十一萬五千九百八十四圓にして之れを十月末日に比すれば資本金に於て二百四十七萬二千百五圓の增加なりと

雜報

●**獨皇太子と大使** 近く御來遊あらせらるべき獨逸皇太子殿下は日清兩皇室御訪問の外は總て微行としてフオンラーグエンスブルグ伯爵なる御假名の下に御旅行せらるゝ筈因みに獨乙大使ムンム男は來一月十八日歸任の豫定なり

●**國庫歲出入現狀** 十一月三十日迄の國庫金歲出入現計は歲入經常部一億七千四百八十三萬一千五百三十五圓三十七錢臨時一億五千百八十六萬千四百九十九圓九十七錢九厘にして合計三億四千六百六十九萬三千三十五圓三十五錢なり歲出は經常一億九千六三百六十五萬四千二百四十三圓八十三錢合計二億五千五百二十五萬九千五百四十九圓三厘なり

●**四百万町歩の餘地** 農本位よりせる治水調査會よりの報告によれば我日本内地の耕地は五百五十萬町步にして總地積に比すれば僅かに十四パーセントにして比較的僅少なるは歐州に其例を見ず地勢の酷似せる伊太利に於ても尚四十六パーセントの耕地を有せり然れば治水策の完きを得耕地の負擔を輕からしめば尚優に四百餘町步擴張の餘地ありと

●**農產收入約廿億** 日本内地農產收入は約十三億圓あり之に副業收入を加ふれば優に十五億圓に達すべく更に臺灣、樺太及び朝鮮方面の收入を約五億圓と見積る時は日本全領土の農產收入は約二十億圓に上る可し

●**官邸の晩餐會** 既報の如く今十四日午後六時より大久保軍司令官は目下滯京中なる汪清國公使一行の歡迎を兼ね當地同國領事、山縣政務總監、松永第二師團長、市川參謀長、小松外事局長、小倉主計監、軍副官二十名を同官邸に招待し晩餐會を開けり

●**清公使博物館觀覽** 滯在中なる汪清國公使には十三日午後二時半隨員と與に李王家の博物館に臨み二時間餘の淸觀をなしたり

●**清公使領事訪問** 目下滯京中の汪清國公使は十四日午前十時十五分英國總領事を訪問したり

●**鹽務利權妨害** 抗議 錫東三省總督は近來日露兩國の食鹽多量に淸國に輸入されつゝあるを以て鹽務利權に妨害ありとし此頃外務部に對し右兩國公使に抗議ありたき旨電奏せり

●**淸人の舊曆に對する迷信** 舊曆は閏月ありて月報其他豫算編成に不便なる上八月に閏月あれば不祥なりとの迷信より林淸の亂義和團の變皆な之に基けりとて新曆採用の請願書資政院に提出されたりと云ふ

●**鮮海漁業新免許** 兼て出願中なりし山口縣大津郡聯合漁業組合（桝網）都濃郡鮮海漁業同業團（桝網）豐浦郡鮮海漁業團（大式）の朝鮮沿海に漁業許可請願は豫て總督府農商工部にて調査中の處此程完了免許することに決し過日所管縣廳へ向け夫れ〳〵免許狀を送付したりと

●**仙臺の朝鮮移民** [illegible]若柳町にて百名、同郡稱僊村交涉纏りたり

●**櫻井丸無事** 遭難漁船救助に向ひたる仁川稅關監視船櫻井丸は一時元山崎沖に於て沈沒したる疑ひありしが忠淸南道於靑島に避難し居たる由にて十三日夕群山港へ入港せりと

●**水產組合漁民救濟** 朝鮮海水產組合にては今回古群山群島漁民救濟として遭難者一人に付き金一圓五十錢同じく船一隻に付き金一圓の標準を以つて木浦營內丈けに對し總額金二百八十圓を下付することに確定せりと云ふ

●**大邱金融理事會** 大邱地方金融組合理事會は十二日より道廳内に開催地方金融狀況及農事改良其他に就き協議を續行しつゝあるが出席者は大邱、尙州、義城、永川、東萊、星州、金泉、興海、慶州、榮川、盈德の各組合代表者にして李長官の訓示等あり熱心に協議し居れりと

●**鐵道會議と廣軌** 鐵道會議は愈々十五日午後一時より鐵道院樓上に於て開會することに決したり議題は明年度鐵道豫算、鐵道布設法中改正案、私設鐵道許可の件及び第廿七議會の大問題たるべき廣軌改築費にして民間議員も其後稍や廣軌改築計畫贊成に傾き來れる摸樣なれば同案は無論大多數を以て同會議を通過すべし

●**日露間通切符** 日露間の旅客連絡に就ては曩に協定濟となり去る四月一日より日露間は實施しつゝあるも日露間は露國側に於て賃金改正中なりしを以て延期となり居たるが過般露國より改正賃率表を送付し來りたるを以て鐵道院にては之に依り連絡賃金表及び切符の調製等に着手しつゝありしが明年二月一日より實施することゝなり目下露國に對し期日差支なきや否やを照會中なり新橋より露都までの改正賃金は左の如し右賃金の外寢臺料一等は約七十圓を要すとの事なり

△大連經由（一二等）大人三百三十四圓四十五錢、小人百三十圓六十五錢（二等）大人二百三十四圓六十五錢、小人九十三圓十錢

●**駐劄師團の交替** 昨今内地人間には朝鮮駐劄第二師團は來年四月を以て廣島第五師團と交替すべしとの說專らにして現第二師團關係者の中にも稱導されつゝあれども是れ架空の流言にして之れ恐らくは來年四月に滿州守備の[illegible]師團の交替期に朝鮮守備師團とは何等の關係なく滿州守備の誤報なるべしといへり

●**騎兵の檢閱射擊** 龍山駐劄騎兵第二聯隊にては十六日午前十一時より午後一時迄弘濟院東北方砂原に於て實聯隊の包檢閱射擊を行ふ筈なるが檢閱官は騎兵聯隊長にして師團より吉田參謀官立會す

●**民團法中一部改正** 十三日府令及び訓令を以て居留民團法施行規則、同官廳心得、同財務規則中の改正を行はれたるが右の結果として民團申請の認可權は道廳の保有する所となり尤も府廳も或場合には認可權を有するも結局民團の直接監督官廳は道廳となりたれば爾來總べての書類は道廳宛とし府廳を經て差出す筈なりと

●**運動委員東上期** 過般在朝鮮商業會議所聯合會に於て決議したる事項に各主務省へ請願する件[illegible]入廢止の件の如き帝國議會の協贊を經て實行せらるべき件に就き運動の爲め聯合會より二名の委員を東上せしむることは旣報したるが京城より山口會頭外一名東上することとなり來春匆々出發すべしといふ

●**榊原元軍參謀長** 過般來北韓地方巡視中なりし元軍參謀長榊原少將は豫定の視察を終ひ今十四日午後八時龍山着の筈なるが同少將赴任期は未定なるも新任參謀長柴少將今月十九日着任すべきを以て右着任の上新田參謀長事務の引繼ぎを了すべき由なれば多分本月下旬なるべしと云ふ

●**柴參謀長着任期** 新任朝鮮駐劄軍參謀長陸軍少將柴勝三郎氏は來る十七日東京出發十九日午後八時龍山着の筈と聞く

●**師團兩部長送別會** 本年の陸軍大移動にて豫備役仰付けられたる第二師團經理部長一等主計正田中三郎氏及び八師團獸醫部長に榮進せる一等獸醫正篠崎雅太郎氏に對し第二師團有志者は來る十六日午後五時より京城ホテルに於て盛大なる送別會を爲し且つ兩部長に對して紀念品を送るべしと尙ほ兩部長は出張中なりしが今明日中に着任すと

●**門司驛物品陳列棚** 今回九鐵管理局門司驛構內に於て物產陳列棚を設け各地の重要物產を來往の旅客に紹介するの設備を爲し門司商工會にては九州の咽喉たる同地に於て適當の企劃なりとて之を贊助し各地當業者に對し陳列勸誘中なるが陳列希望者は門司驛長宛に規約書を差入れ相當條件に依り物品を陳列し廣告を爲すものにして其の要項左の如し

出品申込期日は四十四年一月二十日限とす○出品資格者は生產業者、製造業者、卸賣、仲買人及直輸出入商人とす○陳列品は可成左の方式に依るべきこと（イ）醬油、油、和洋酒類（瓶詰）電氣機械、漆器類は現品の儘にて陳列すること（ロ）石炭、金、銀、銅、鐵製作品、反物類、地金、木材、肥料、茶、花莚、豆粕、穀類、罐詰、菓子類、生菓、砂糖、煙草、食鹽、セメント、棉花、洋紙、蠟燭、藍、海產物、編物、竹細工類は陳列面積間口八寸奥行一尺高九寸の棚に陳列し得らるゝ適當の方法にて特製し陳列上種々美術的工風を凝し出品を要す（ハ）盆栽植木類は出品者に於て體裁よき棧又は置臺を設けたる者は待合所の餘地ある場所に陳列することを得（ニ）石炭コークスの如きは炭坑每に塊炭切込粉炭等に區別し出品支なしと雖も（コークス）切込粉炭の如きは瓶詰を望む

●**名古屋地方產物陳列館** 般併合後の朝鮮狀況視察の爲め渡來せし[illegible]何れも同地方の實業家の[illegible]其の效果必らず徒爾に終らざるべきを期待されしが果して當地の有望なるを認めたるものゝ如く歸朝後一行の人々は相協力して名古屋地方產出の物品を主として大規模の陳列館を京城に建設することゝな[illegible]於て其準備中なりといふが[illegible]は來春三月頃なるべしといふ

●**朝鮮銀行條令** 別項の如く韓國銀行は明年二月同行株主總會に於て朝鮮銀行と改稱せらるゝ筈なるが從來の韓銀行は舊韓國政府の制定せし同行條令により營業し來り年來韓政府の補給を受け居りしが併合と共に同行の對韓政府との權利義務とし日本政府に於て繼承する所となりたるより近く朝鮮限り條令の發布を見るべき筈なるが同條令制定に關しては目下總督府の制令として發布すべしとの說と法律として議會の協贊を經べしとの說ある由なるが多分は法律として二十七議會の開會早々提出せらるべしと云ふ

●**韓國銀行の改稱** 日韓併合と共に韓國を朝鮮と改稱せられたる結果從來韓國の冠稱を有せる諸會社及び團體等は悉く朝鮮と改めたるが韓國銀行も愈々來年二月の總會に於て行名を朝鮮銀行と改稱すべき事に重役會議に於て決定したりと

●**年賀郵便特別扱** 年賀郵便物は成るべく左記特別取扱要領に據り[illegible]本月廿日前後迄に之を發出するときは歲末に於ける他の要急用務を辨するにも累を爲さゞるべく自他共に頗る利便なるべし因に通信局部內に在ては自ら率先して之を勵行すべしと特別取扱要領左の如し

一、年賀郵便を特別取扱と爲すには年賀郵便物のみを纏めて把束と爲し年賀郵便と記載せる紙札を添付し各郵便局所の窓口に差出すを以て足れり

二、特別取扱年賀郵便は郵便函には投入せざることと若し之を郵便函に投入するときは歲末中に配達せらるゝ如き虞あり

三、特別取扱年賀郵便は引受局にて一月一日の引受日附印を押捺して豫め配達局に送付し置き配達局にては一月一日の第一號便より配達す

四、特別取扱年賀郵便の引受は十二月十五日より廿九日迄なりと雖も二十五日以後に在ては自然其の效用極めて薄し故に後くも可成十二月廿三四日頃迄に發出するを最利便とす

●**歲末と速達郵便** 客月一日以來京城龍山各局にて取扱開始の速達郵便は實施日尙淺きに拘らず豫期以上の發信あり殊に近來日に益々發信增加の傾向あるは漸次該方法の利便效用の周知せらるゝに因るべきも同時に寒氣の酷敷さと共に追々多忙の時期に迫り一般に特便を發するの困難なる爲めにも[illegible]至便の由るなるべし

●**檜垣道長官出廳** 同長官方巡視先きに於て病を得醫師の勸告に依り去八日中途より歸京し爾來自邸に於て加療中のところ稍々輕快は覺ゆ[illegible]

十六日出發東上の筈なりと

●**牧山耕藏氏歸城** 日本電報通信社京城支局長牧山耕藏氏は社用の爲め東上中の處十三日歸城せり

▲**京城手形交換高**▼

	金高	枚數
十二月十四日	二一六、〇一七、五三	四〇一

▲**治外法權**▼ 半島の日本人社會に目下絕體に無い者は乞丐と社會主義者だ、乞丐と社會主義者、コンナ厄介な者は寧ろ無い方が我々の名譽だ、ダガ今後とてもドウカ無い樣にシタイ▲乞丐と社會主義者、之を一緖に論じたら世人の中に不服を言ふ者があらう、何となれば乞丐は字の示す如く物を乞ひで社會主義者は上品だと▲併し記者の見解を以てすれば社會主義者には成程文字もあらう、亦た理屈も言はふケレども働く事が嫌ひで自分の貧乏な事を國家社會の罪に歸し、動もすれば他人の物を只で取らんとする癖を持てるところより推せば社會主義者等はヤッパリ乞丐の類だ▲半島の日本人社會は目下の處其組織體が皆壯な者ばかりだ、併し年數が經過に從ひ老幼が殖わると生活が困難になつて段々困まる者が出來よう、現に行路病者なども澤山あつて其筋に厄介を掛けて居る始末だ▲困難者と云へば之等の輩が最も困まるのは病に罹つたときだ、彼等は醫藥の資に乏しき爲め癒る者も見す見す生命を失ひ若しくは廢人となるのだ▲斯る輩への第一の恩惠は病院の施療だ、而るに此施療が從來中々六ケシかつた者だ、現に國費支辨の舊大韓醫院でさへ病氣で惱で居る者に警察の證明とか何とか云て施療を拒絕した者だ▲所が先頃大韓醫院が總督府醫院となり院長が藤田に成てからは態度一變、困難者には餘り理窟を言はずにサッサと施療をして與るソウだ、之でこそ醫の仁術たる所以も知れ、困難者は政府の難有さと云ふ事を知ると云ふ譯のものだ▲東拓會社は監督局が出來て、直接監督を受ることになるのだ、ソレに異て御用紙の京日には從來の總督間接監督の外に阿部と云ふ直接監督を置くことになつたソウだ、コウ二重に監督されては如何なタザイム君も發展は出來まい▲支那政府は近々二十万兩を奮發して一大機關新聞を起すソウだ、タッタ二十万で完全な機關が出來ればソレコソ安いものだ▲政府の機關新聞と云へば何でもかでも役人共の顏の造作や屁をヒッタ事やを褒めてさへ居れば者のものと考へて居るのは日本御用記[illegible]、支那には[illegible]

相場電報（十四日）（明治町西村支店着電）

▲大阪株式（前場）（後場）

▲京坂同	五八、九〇	
▲電鐵同	五八、九〇	
▲鐘淵同	一〇四、[illegible]	
▲紡績同	九七[illegible]	
▲郵船同	不	
▲東京同	一三二、四〇	
▲株新同	一三一、九〇	（後場）
▲神戸電鐵 引當	三六、〇〇	三七、八〇
▲大坂同	（不明）	
▲株式同	一四一、四〇	
▲同直同	一四〇、一〇	

[illegible]來人

▲尾西要太郎（朝鮮新聞記者）十三日
▲[illegible]
▲グー、デ[illegible]（ヘンデー）（獨逸技師）同上

相塲電報（十四日）（明治町西村支店着電）

▲大阪株式（前場）（後場）
▲神戸電鐵 引當 三一〇、〇〇 三七、八〇



福助のポテレン

▽萬事俺の方寸にある

醫者だつて藥計り賣つて居ては儲れまい、まなるものに見放される其所で多少醫者なしに頬冠りをして嫌なれ客も取る取つてる内には又好いたのも出來れば其所は受け身のツイした事から姙娠もするすれば軈ては分娩するは天下の理法敷の免る可らざるものなり、其の敷は免る可らざるものとして免れ如と思はぬが生分別ながら相手に依り胤の出所に至つては何うも免れて見たく無分別を起すこともあるなり然るに茲に紹介せんと欲する一條は其の相手なるものが至極上種なので名詮自稱ニコ〳〵もので居ると云ふは開進亭の福助拍子本年三十の年增盛り容貌も夫れ程醜くないので一寸見は二十五六としか見へぬと云ふ得な生れされば同亭に出這入る紳士閣に福助〳〵と可愛がられて辛い勤めも苦にならず明し暮して居た本年二月泥峴街で屈指の呉服商店主何兵衛さんのれ目に止りれ規定の十五圓にて南山町の入船で年甲斐もなく譯もなく盛つて仕舞ひ夫れから云ふもの福助ならでは夜も日も明けぬをとなり入船を宿坊に毎夜の皺伸ばし悦に入つて御座つた迄は天下泰平なりしが盈つれば缺くるで福助さでも其の後見るものを見ざる事四ヶ月餘り一ケ月や二ケ月はデもなくて止まる事であるが四ケ月とあつては油斷ならずコリヤ少々變だ哩夫にしても胤の出所は春日か住の江か入船かと沈思熟考と云ふ奴をなしたる結果入船の夫れに相違なしと決定したるは八月上旬の事なりければ其の次に何兵衛さんに會つた時の寢物語りに旦那や私や飛んだ不調法をしたのよ勘忍して頂戴な決して惡る氣でしたのぢやないんですからね實はツイ何んして勸めする身の恥かしい妾や貴郎の胤を宿しましてモウ四ケ月れ貴郎に子供衆がないのなら夫れは嬉しう御座んすがれ四人とか居らつしやるとの事なれば到底れ引き取りは下さるまいし私も又引き取つて下さいとは申しませんが只お情けだけは十書可憐相な奴と仰

▲京坂同 五八、九〇
▲電鐵同 五八、九〇
▲鐘淵同 一〇四、[illegible]
▲[illegible]同 一〇四、[illegible]
▲郵船同 （不[illegible]）
▲東京同 一三三、四〇
▲株新同 一三一、九〇（寄）

云つて下されば夫れで滿足して出來たれ子さんは何うなさして決して粗末にはれ育て申しませんがと所謂思ひ迫つたと云ふ奴でヨヨと計りに伏し沈みし姿は霜に惱みし菜葉の如く見る目哀れに見へたりける程に旦那たるもの何んとか云はざるを得ない況んや膽魂參つてる何兵衛君グット反り身の馬鹿を云へ何人あつても宜い子供況して可愛いれ前の腹に出來たのなれば少々手傳が入つて居ても其樣な事は問ふに及ばず

萬事は俺れの胸にある安心しろ

安心しろとの甘い詫宣に福助グット安心して目下盛んに安心に及で正月が待ち遠だワとは吐して居ると因に正月匆々が出產期なりと云ふ

税關官吏の艶聞（下）

▽捨てられた福助拍子

夫れよりは福助の方へは顔も見せずしげとのみ娯しみ居る或る時兩人にてコタツに這入り一杯飲みながら義敏は夫婦の夫の字を指先にて書き示せしにぞしげも敗けじと二世の二の字を目で知らせけり其夜の寢物語りに何んと相談が纏りしや翌日早々手紙にて八坂を暇を取りしが福助の手前を憚り海岸の某旅館へ圍ひ置き隔日位に逢ひに行き娛しみ居たるが十月廿七日にしげは義敏の宅へ行き一日も早く新世帶を持ちたいなぞといろ〳〵甘たるいことを話し居る處へ福助は暫く義敏が見へぬに君しや病氣にてもあらんかと訪つれたるに見知らぬ女とさも樂しそうに話し居るを見て妬しくは思ひたるも騒ける胸を押鎭めて其塲は其儘歸りだるが義敏は飛んだ處を見られたりと思ひしも其儘になし置かば如何なる珍事を引き起すやも知れずと心痛のあまり同居人なる杉山某に依賴し直ちに福助の後を逐ひ松山樓に至り實は二三日前に國元にて許嫁なりし妻が來りし故是れ迄の事は夢と斷念して呉れとの意味にて離縁話をなせしに福助は一時はムット腹立てしが斯の樣な薄情極まる者とたとい夫婦になりたりとも行く末が案じられると思ひ直して心よく承諾し前に取交したる誓紙を杉山の前にて引破り茲に全く關係を絶しも義敏が無情なるを大に憤慨し居る由義敏より福助に宛てた落し文ざ覺しきものを開帳すれば左の如し

謹呈近頃は誠に御無沙汰のみ致して居りますが惡い心でしてをるのではない只世間の手前又は友達などの事もあるがらつい〳〵失禮して居つたのです又ながら〳〵わわぬのも私は考へがあつたのですつまらぬ事は何んでもよろしいが今日歸る（税關から）時にあなたは仁川濱の前で誰れと話しをして居たのです誠に心持が惡い私は誠に面白くない事と思つたいまから後でもあの樣な事があると面白くない私は氣をかけて居るから餘り馬鹿な事をせぬ樣に賴ます何事も面會の後の事にしましようが只思ふた事だけあれが若し面白くない人なれば私は此れきりですよ其のれ積りで御もてなさいさよなら　義

せんぞのへ

又々しげの素情と義敏の事については尙精探の上にて發表せん

▲大坂同 （不明）
▲株式同 一四一、四〇
▲同直同 一四〇、一〇

●藝妓の汽車飛下

仁川敷島朝日樓抱藝妓小萬事菅原チトセ（二三）は一昨日午後十時實父が歸國するを見送の爲め同樓主井出吉次を附添人として扭峴驛に來り列車内にて發車迄種々談話をなし居たるに驛員より注意せられたるにも不抱別れ惜しさに降車せざりしに汽車は一聲の笛を合圖に發車せしより大に慌て飛び降りたる處附添人諸共轉倒し井出は無事なりしもチトセは強く腦を打ち付け頭部及右腕に擦傷を負ひ一時は人事不省の有樣になりたるを以て待合室に抱き込み應急手當をなすと共に電話にて久木田醫師の來診を賴みしより直ちに同醫出張間もなく蘇生したるも足部に血の附着し居たるより診察せしに腕の擦傷の出血に染りたるものにて別に負傷もなかりしを以て附添人に引渡せり

●肺病患者の縊死

十三日午前十時頃櫻井町に縊死者ありたるが右は東京市深川區東森下町六十一番戸大工職酒井卯之助（六五）にて四五年前より本町七丁目百三十番戸建具職杉安太郎宅に雇れ正直に働き居りしが去月廿五六日頃より肺病に罹り中島醫院にて治療中なりしも其の効なく益々重くなり近隣の者の世話になるを氣の毒がり世を悲觀しつゝありしが平常午前七時頃起床するに十三日に限り午前十一時過ぎ迄起床せざるより隣家池中コウ（三七）は不思議に思ひ戸を開き寢室を見しに板箱を踏臺にして細引繩を以て縊死し居るより氣絶せん許りに驚き附近の者に知らせ一方南部署に急報せしより警官は醫士と同行檢視死體は前雇主杉安太郎に於て引取り埋葬したりと

●鮮人の友人毒殺

西部磐石坊治洞十七統七戸安永完（三七）は竊盜前科付曲物なるが友人なる磐石坊蛤洞九十二統六戸飯食店金世函（三四）より詰責されし事屢々ありて怨恨いよ〳〵重なりしが遂怨恨晴らしに殺害せんと決意し毒藥を購求し去月三十日共に飲酒せんと金世函方に至り酒の中に毒藥を入れ之を飲せ殺害の目的を達したる事東部署刑事の探知する所となり本署に引致取調の上檢事局に送らる

●民團法中改正

十三日府令及び訓令を以て居留民團法施行規則、民團役所職制、民團事務制中の改正を行はれたるが右の結果として民團として府廳も議會には認可權を有するも結局民團の直接監督官廳は理事廳となりたれば爾來總べての書類は理事廳宛申請の認可權は道廳の保有する所となり府廳を經て差出す害なりと

●貸金の代りに娘

仁川沓組洞李德成（四六）は妻金史（四三）娘順（一二）の三人暮しなるが本年二月同洞孔甫國の妻金史（四）より金三十圓を毎日六十錢宛利子共に六十日間に返却する約束にて借入れたるも別に貯へとてもなく其日暮しの事とて約束の期限には中々返金出來ざるを金は嚴しく催促をなすにより己を得ず家財道具を賣拂ひ十圓丈返金せしに金は非道にも殘金に對し娘順を外國人に賣り其金にて返金せよと又も嚴しき催促に李も今は詮方なく遂に娘を賣る事に承諾せしかば金は李召史と云ふ寡婦と相談して順を支那人某に七十五圓にて賣渡し五圓を李に手數料として渡し殘七十圓を横領して李に渡さざるを以て訴へ出たるより取調の上前記の次第と判明せしかば直ちに娘を取戻し李に引渡せしに同人は涙を流して喜び連れ歸れりと金は尙取調中

●日商人の面汚し

仁川新町是定藥種店に一昨日一人の鮮人が疝癪丸を買に來たるに二十錢定價の同丸を三十錢に賣渡した然るに鮮人は其儘立歸りたるが他の者より二十錢定價なりしを聞かせられたるより直ちに同店へ來りて右の不都合を責め差額十錢の返金を請求せしも同店にては事を左右に托して返却せざるより警官出張嚴重なる說諭を加へ十錢を返金せしめたり實に商人の面汚しと云ふべし

●高價火に當た男

南山町一丁目井上方居住山口縣山口町字金古增町百四十八番地士族安澤善吾（二三）が去る十日午後時二十分頃桃山遊廓の歸り途青坡派出所に立ち寄り憲兵なりと詐稱して拘留せられし事は既報の如くなるが同人は竊盜前科二犯の曲物にて今般餘罪として去る六日長谷川町一丁目小料理店京樂庭に登樓酌婦廣瀨よし（二二）を敵娼に遊興翌朝歸宅の際よし所有の肩掛一枚（代二圓）を竊取したるを初めとして外三ヶ所に於て金六十圓餘に相當する衣類外數點を竊取入質して得たる金は全部桃山遊廓一樂樓に於て費消したる事酒井刑事に探査され檢事局に送らる

●仁川雜事

仁川花町二丁目木村九八は一昨日午後十時頃花町二丁目より三丁目の道路通行の際博多織三ツ折財布在中金十九圓と水昌印鑑一箇約束手形一枚とを遺失せし旨屆出▲敷島一昨夜は三十八人の遊客にて此の費消金百二圓五錢なり

目ご耳（十五日）

▲壽座 來る十五日午後五時壽座に於て素人淨瑠璃竹豐會納會三日目番組は

金比羅利生記百度平内の段（靑枝）政岡忠義の段（志樂）赤垣出立の段（さても）梅川忠兵衛新口村の段（一聲）勘平腹切段（美也子）順禮歌の段（花やれ顔）戀女房踏掛村の段（花月市助）平作内の段（其翠）判官切腹の段（眞砂）飯原兵衛館の段（馬昇）本藏下屋敷の段（大さ）澤市内の段（南大門明烏山名屋の段（竹風）〇大切掛合菅原四段目松王（靑枝）源藏（馬昇）玄蕃（大さ）戸浪（眞砂）千代（志樂）百姓（さくら）御臺（一聲）菅秀齊（美也子）小太郎（とても）三味線鶴澤才六、龍糸、世話方眞駒なり

▲浪花館 馬關辨天座及び釜山幸座に於て大好評を博したる浪花節京山北星一座の十五日の讀物は

白石噺（虎奴）後藤又一郎（虎吉代）水戸黄門記（隅圓）大久保藤の丸（小虎丸）石山軍記（二代目虎丸）義士銘々傳、左り甚五郎長演二段（京山北星）

▲平民文園▼

▲釜山東本願寺別院輪番役僧等相謀りて死人の膽を取り遂に顯れて捕縛されたりと昔は耶蘇敎が人の生膽を取るとて佛者に攻擊された時代も有つたが未だ實際に夫れが爲めに捕はれたと云ふ話は聞かない今は却て佛者が死人とは云ふものゝ人の膽を取る樣に成た今度は耶蘇敎から佛敎は人の膽を取ると云はれるも仕方があるまい兎角世は廻り持矢張り輪廻の理法かな（先の世生）▲歲十四五才の少女にして技藝見習志望者は御來談を乞ふ（南大門通三丁目十一番刺繡屋）▲佐賀縣人小森義郎君健在なるや目下の住所本欄迄通知を乞ふ（谷口生）▲京城市内にて國語和歌等れ敎へ下さる御方を御存じの御兄姉樣方は何卒當欄に御住所御敎へ下さい（中部の女）▲記者君の公平なる御取斗にて新聞も即日より配達せられたり茲に謝意を表し尙貴社の大活動を祈る（鍾路靑年會員黑川道作）▲黑川君に萬謝す（記者）▲梅鶯會の天狗淨瑠璃會に誘はれ態々龍山三界から聞きに出掛けた處イヤハヤされもこれもテンデものに成つて居ないあれでは聞き手の少ないのか當り前だ餘り自惚れると味噌を付けるよ併し折角の奮發案外であつたろうと同情する（聞度無生）▲本年は慰勞金の給與無之越亂致し候條乍遺憾



●運動委員東上期

商業會議所聯合會に於て決議したる事項に各主務省へ請願する件［illegible］入營止の件の如き帝國議會の協贊を經て實行せらるべき件に就き運動の爲め過般在朝鮮聯合會より二名の委員を東上せしむることは既報したるが京城より山口會頭外一名東上することゝなり［illegible］發すべしといふ

歲末年始の禮御斷り申候（判任總代）をれには及びません（小僧）▲若草町和田病院は不親切ですあれでは繁昌もまい（定車夫）▲北風の激しい寒い日に分は〇大門外の知人を訪ふ可く家を出たが知人〇〇は近頃移轉して判らない仕方なしに驛前の巡公駐在所に聞きに行つた▲駐在所の扉を開くと中から八の字の有る若いのと貧相な老年が股火鉢をしながら僕を睨むア、コワ僕は一禮した彼等は傲然として叩頭はサテ置き一齊に『貴樣は何だ……』『ハイ私は〇〇町〇〇番地が判りませんので…』と亦僕は腰を二ツに折つた、若いのが鷹揚に町通りを指し『アノ電柱の立つて居る處から二三間行つて聞けば分るゾ、如何にも腹でも立つたかの樣なもの云ひ、僕は何も人にものを問ふて敎へ樣が粗雜で有ると云ふて立腹するのでは無いが併しこちらが禮を以てするに餘り傲慢な巡公の言動に僕の膽は怒に燃へつゝも亦一禮して『有難ふ御座います』と云つて出た▲肝『下に傲つて上に阿ふ』是や現代の所謂成功の經提である、僕は斯ふ熟々感じつゝ敎へられたまゝに道を辿つた（只子）

今日の運勢

十二月十五日舊十一月十三日 四綠大安甲寅滿三りん

●一白 冶金礦山の業に吉其他平靜不和葛藤の端を醸す勿れ△二黑 取引貸借保證事に忌む盜難遺失防ぐべし新事旅行見合せの事△三碧 移轉旅行新事婚談中裁共同連盟の事に忌む子孫の事煩累多し△四綠 業務取引上に間違生じ易し婚談旅行移轉相談中裁協定に見込なし△五黃 盜害酒色の破れを戒しむ保證受印を禁ず新事旅行見合すべし△六白 新事旅行見合せの事紛爭不和遺失防ぐべし△七赤 共同婚談組合相談効なし負傷衛生に留意の事△八白 妄言に罹り易き日なり尙盜害紛爭失脚遺脫畏るべし△九紫 勢位增進の日就職仕官相談委囑婚談熟議遂行に吉（三一館判斷）

▲取消 貴社發行の明治四十三年十二月十三日第五百七十八號三面欄内に靑坡監獄建築從業職人の亂暴と題し自分に關する記事御掲載相成候處今村久泰郎を本年七月頃レール其他請材料を放棄し馬山方面に逃走せり云々の記事に有之候へ共自分斯る事更に無之自分は本年三月末日京城漢城組合荻野寅吉の請負に係る靑坡監獄敷地均工事の下請負を爲し工事進行中當本年七月八日漢城組荻野寅吉の請負に係る馬普橋梁改修工事の下請を爲し工事監督の爲め馬山へ出張し時々靑坡監獄當工事の爲歸龍し現今該工事の現場代人を爲し居り工事に從業進行中にし全く馬山方面に逃走したる事無之みならず又使役せる職人土工等に對し賃金の不拂等更に無之事實相違の點右之諸材料を放棄し馬山方面に逃走せりとの記事は何人かの中傷に出でしものにて事實無根に有之候間無根の記事は御取消相成度相違の點は御訂正被下度候也 明治四十三年十二月十三日 龍山元町三丁目七十一番戸 土木建築請負業 今村久泰郎 印 京城新報社御中

公人私人（十三日）
▲尾西要太郎（朝鮮新聞記者）[illegible] 十三日
▲グーテ、[illegible]ンデー（獨逸技師）同上